

## 秋の砂浜美術館でひらひら 「潮風のキルト展」

黒潮町の秋を彩る「潮風のキルト展」が、11月22日から24日まで、入野松原で開催されました。

今年、県内や愛媛、遠くは山形や沖縄など全国1都8県から応募のあった60作品と協力キルトを展示。企画展「クジラの館長」では、ホエールウォッチングをモチーフにした浜崎あけみさんのキルトと大漁旗が松原を彩りました。

例年より遅い開催でしたが、天候にも恵まれ、3日間で約2000人のお客さんがキルトやらつきょうの花を楽しみました。



松原とらつきょう畑の間でひらひらする大小のキルト。遠くから眺めても、近くで見ても素敵です。



## 片坂バイパス・市野瀬橋に 伊与喜小学生がお絵かき

国土交通省中村河川国道事務所が平成30年開通を目指している片坂バイパスの市野瀬橋工事現場を、12月6日、伊与喜小学校の5・6年生10人が見学しました。

市野瀬橋は、片坂峠の山間部を通る、片坂バイパスで最も高い橋です。児童らは橋がどのように作られるか説明を受けた後、工所用エレベーターで地上約70メートルの橋脚上部へ。ビル23階の高さであって、風が強く寒く感じます。次第に高さに慣れた子どもたちは、橋を支える直径1・5mの鋼管9本に、好きな絵や将来の夢などを自由に書いて楽しみました。



橋脚上部の鋼管に、絵や字を書く子どもたち。橋が架かればコンクリートで覆われて見えなくなる部分ですが、いい記念になりました。

## 手づくりそばで交流 「第1回蜷川そばまつり」

蜷川地区では、平成22年からそば作りに取り組んでいます。12月15日、これまでの活動の関係者を招いて、であいの里蜷川で「第1回蜷川そばまつり」を開催。同地区の活性化に取り組んでいる高知大学の学生グループ「みながワイワイ隊」のメンバーや、毎月第1・第3日・月曜日の蜷川モーニングの常連客、地域住民など約50人が集まり、そば作りを体験しました。

また、大学生がデザインしたであいの里蜷川のポスターや、住民と共同で作製した看板も披露。看板は県道沿いに設置しています。



右)そばを作る学生と見学する蜷川モーニングの常連さん。この日のモーニングはそば付き！  
左)みながワイワイ隊がデザインした看板。

## 黒潮町佐賀北部地域協議会が 若山楮蒸し剥ぎイベント

5回目となる「若山楮蒸し剥ぎイベント」が、12月15日、土佐佐賀温泉こぶしのさと横の特設会場で行われました。拳ノ川周辺では、約50年前まで和紙の原料となる楮の栽培が盛んでしたが、次第に衰退。平成21年から同協議会を中心に若山楮の復活に取り組み、最近では、古文書修復用紙の原料として海外でも使われています。

今年は、佐賀地域の小学生や観光客ら約150人が楮の皮剥ぎを体験しました。同時開催の「さが谷三里マーケット」では、ちらしずしなどの販売や、若山楮の和紙で作った衣装でフラダンスの公演も行われました。(商工観光係)



和紙を張った竹ドームの中で作業中。木桶で約3時間蒸した楮は、皮がすると剥がせます。この皮が和紙の原料になります。